特別養護老人ホーム 康寿園

平成 30 年度 事業計画 (案)

〈法人の基本理念〉『その暮らしとその人らしさを求めて』

平成 30 年度 『希望ある栄光の年』

今年度の行動目標を踏まえ、康寿園に関わる人が光り輝くために①日頃の対話と多職種の専門性を発揮しながら康寿園の生活全般支援の取り組み質の向上②30年制度改正に順応した経営の改善を実行していくことで栄光の年にふさわしい成果を収めていきます。その成果を『桑の実イノベーション』につなげていき地域共生社会の実現に向けて康寿園としての基盤作りをしていきたいと考えてます

【平成 30 年度の目指す理想的な姿】

介護・看護が手を取り合うことで入居者様の支えになり、豊かな暮らしを実現する。

- ① 介護福祉士を中心として入居者様本人及び、誰に対しても、介護に関しての助言・指導が行えるようにする。
○奇数月に勉強会を開催、偶数月にグループごとに看護師への伝達講習会を実施する。
- ② 認知症ケアの『今』を学び、入居者様にとって居心地の良い住まいを目指す
○年 2 回介護・看護合同で認知症ケア勉強会を実施する。
- ③ 挨拶・笑顔を忘れずに、話しかけやすい職員像を目指す。
○年 2 回あいさつ・笑顔月間を実施する。

【収益への転換（顧客認識）】

特養+短期入所を合わせた稼働率 95%を目標とします。

居宅事業所との連携や多職種協働を強めていきながら多様な加算の算定取得に取り組みます。

【地域の暮らしを支える生活困窮者支援活動】

『彩の国あんしんセーフティネット事業』生活困窮者支援活動に参加します。

<法人の基本理念> 「その暮らしとその人らしさを求めて」

平成 30 年度の行動目標 「希望ある栄光の年」

平成30年度の総合相談室は、桑の実会の各種サービス・チームワークの良さを強みに、地域から信頼され、地域から選ばれるケアマネジャーを目指します。

ご利用様が、住み慣れた地域で、出来る限り自分らしい暮らしが継続出来るように、地域包括支援センターと、協力してまいります。

また、「希望の実イノベーションプロジェクト」に、積極的にお手伝いしてまいります。

【年間目標】

(1) 質の高いケアマネジメントの実施

- ・居宅介護支援において法令を遵守し（コンプライアンス）、基準に即した運営を行う
- ・利用様が可能な限り、自立した生活を送る事が出来るように、「尊厳の保持」「自立支援」「重度化予防」の視点を持ったケアマネジメントを行う
 - 「求められる相談員像」の実践と研修の再編
 - 内部・外部研修への参加
 - 相談援助技術力のアップ・資質向上に向け、個別研修計画の実施

(2) 地域貢献

- ・地域包括支援センターの併設居宅介護支援事業所として連携を行う
- ・地域の行事に参加し、お手伝いをする
 - 地域ケア会議、ケアマネ連絡会議等に参加し、地域の社会資源やインフォーマルサービスを活用し、在宅生活の支援を行う

(3) 利用者数の確保

- ・新規利用者を確保し、安定した事業所の運営に努める
 - 目標ケアプラン数 ケアマネ4人体制 月平均取扱件数140件

(4) 桑の実会の各事業所間との連携・ネットワークの強化

- ・相談員連絡会議で、大光園、入所施設と相談員による利用者情報の共有を行います

平成30年3月

平成30年度事業計画

三ヶ島第2地域包括支援センター

平成30年度、三ヶ島第2地域包括支援センターは、エリア目標である「地域共生社会の具現化に向けた基盤づくり」を受け、包括の役割として、地域住民や地域の多様な主体が、他人事ではなく、我が事として自分たちの地域課題に対して取り組んでいける体制の実現を目指し、以下の3点の重点項目を上げる。

① 地域支援事業の取り組み

介護予防を目的とするのではなく、「仲間づくり・居場所づくり」に取り組む事が介護予防に繋がる

という新たな方針を受け、仲間づくり・居場所づくりに繋がる教室を開催し、地域で自立した生活を長く送るための取り組みをおこなっていく。また、地域の関係機関（介護・医療・民生・自治会・ボランティアグループ等）と連携を図りながら、三ヶ島第2地区の住民が主体となって地域課題に取り組んでいけるよう、各事業に取り組んでいく。各事業とも、高齢者支援課からの基準値を確実にクリア出来るよう計画を立てる。

(基準値)	(基 準 値)
	・ 地 域 ケ ア 会 議
・ 介護予防教室	2 回
・ 介護予防講演会	・ 1 回 地 域 ケ ア 個 別 会 議
・ 訪問型介護予防（高齢者実態把握）	7 0 件 3 回
・ 家族介護支援事業	4 回 介 護 支 援 専 門 員 連 絡 会 議 回

② 第2層協議体の体制づくり

従来の地域ケア会議が第2層協議体となることを受け、第2層協議体が、今後効果的に機能していくため、地域ごと（東狭山ヶ丘・狭山ヶ丘・若狭）に新たな小さい会議体を設け、従来の地域ケア会議では出来なかった、より具体的な課題の把握の共有、解決策の検討（行政へ上げる内容も含め）を行っていく。地域ごとの小会議で話し合った内容を、年2回行う地域ケア会議で持ち寄り、共有する体制を作っていく。なお、年間数値目標は以下の通りとする。

- ・ 東狭山ヶ丘会議（仮） 2 回以上
- ・ 狭山ヶ丘会議（仮） 2 回以上
- ・ 若狭会議（仮） 2 回以上

③ 「認知症ささえあい活動」の継続と発展

今後も、認知症高齢者が増加していく事が見込まれることから、今年度も引き続き認知症の問題に重点を置き、活動を行なっていく。

- ・ 認知症サポーター養成講座等の勉強会を開催し「認知症を理解した応援者」を増やしていく。特に、未来を担う若い世代（小学生・中学生）への講座開催に向けて、積極的に取り組んでいく。
- ・ 三ヶ島まちづくり推進会議地域福祉部会の一員として、「認知症 SOS ネットワーク模擬訓練」に協力していく。

平成 30 年 3 月

平成 30 年度事業計画

訪問介護支援事業所

桑の実ヘルパーステーション

平成30年度、桑の実ヘルパーステーションは、桑の実会

- ・桑の実会 基本理念 『その子らしさとその人らしさを求めて』
- ・2020年までの目標 『地域包括ケアの確立で世界に貢献できる人材の城を目指す!』
- ・平成30年の行動目標 『希望ある栄光の年』

を受け次の4つを重点項目として事業運営を行いたい。

- ①月間売上目標610万円 ②サービス提供責任者と直行直帰ヘルパーのレベルアップ③
直行直帰ヘルパーの確保④地域とのつながり。この4点をもとに質の高い訪問介護サービスの
提供、信頼されるステーションを目指し、在宅での介護の限界点を上げ、利用者の皆様が
希望に満ち安心して過ごせるよう支援させていただきます。

① 月間売上目標610万円

月間の売上目標610万を達成すべく、法人内居宅支援事業所、包括支援センターとの
連携強化を図りながら、他法人の居宅、包括支援センターとの信頼関係を構築し定期的
な新規利用者を獲得する。また利用者が在宅生活の長期継続できるよう支援し桑の実ネ
ットワークを有効活用し派遣数の安定を目指す。

② サービス提供責任者と直行直帰ヘルパーのレベルアップ

確実な派遣調整を行い質の高い介護を行う。自宅にて長く暮らしたいと考えている多くの利用者の気持ちに寄り添い、小さな変化を見逃さない観察力を培い、利用者の生活にあった自立を目指す派遣を行う。職員、ヘルパー1人1人の力量を上げるべく研修の充実を図り、利用者、ご家族、ケアマネージャーから安心してまかせられる事業所を確立する。

③ 直行直帰ヘルパーの確保

たくさんの利用者に対応するため直行直帰ヘルパーの増員、確保を目指し努力したい。桑の実学校との連携、交流を深め、人脈を大切に新しい人材の確保に努め職員一同やりがいのある仕事を生き生きと誇りをもって続けられるステーションを構築したい。

④ 地域とのつながり

総合事業の開始を踏まえ高齢者が住み慣れた地域で、自分らしい生活が継続して送ることができるよう地域包括と協力し、認知症カフェなどの参加により地域、住民の情報収集に努めヘルパーステーションへの理解を深め利用に繋げる。

以 上

康寿園グループホーム輝

平成30年度事業計画（案）

< 桑の実会の理念 >

その子らしさとその人らしさを求めて

< 康寿園グループホーム輝の目標 >

1. 認知症の方、ご家族、スタッフ、それぞれ一人ひとりが、光り輝くための地域共生社会を構築することを目指す
2. 認知症の方が地域の中で暮らす事が当たり前になる社会を目指す。
< 認知症の人に何をしてあげるか → 認知症の人と一緒に何ができるか >
 - ・ 認知症の方と一緒に積極的に地域に出て行く。
 - ・ ふれあい活動や小学生の登校見守り、玄関周りの掃除、在宅介護の会（みかに茶屋）等への参加を充実させ、地域に出て行く機会を増やす。
3. 職員満足度の向上
 - ・ すべてのスタッフが年齢にとらわれず、何歳になっても働き続けたいと思える環境を作る。
4. 経営の安定
 - ・ 入居者の筋力保持の運動（棒体操・アクティビティ）を充実させ、転倒骨折入院による空室を避けることで入居率 95%を確保する。
5. 地域とのかかわりを大切にする
 - ・ 運営推進会議（年 6 回）を開催し、行政・地域・家族が抱える課題を共有する。

H30 年度事業計画【老健入所】

目標

- ① 介護報酬改定や、ご利用者の多岐にわたるニーズへの対応、地域連携など老健として多くの役割がある中、強みである多職種連携をより強化し、選ばれ求められる施設を目指します。
- ② 「ありがとう」をテーマにご利用者へ職員へ職場へ関わる皆さんへ感謝の気持ちをお伝えし、共有し、施設に関わる人が今まで以上に心地よいと思えるようなケアステ入所を目指します。

行動目標

- ① 年間平均 95%の入所率を目指す
 - ・前年度培ってきた各関係機関や通所リハビリとの連携をさらに強化し、安定した入所率を目指す。
- ② 介護報酬改定の加算取得への取り組み
 - ・今年度の介護報酬改定に伴い、加算の算定方法を部署間で共有し算定できるものを検討し算定できる体制を作る。
- ③ 医療的ケアの拡充
 - 1) ターミナルケアや医療依存度の高い方の受け入れる体制を確保するために、特定登録事業者の申請・登録を進める。
 - 2) 喀痰吸引研修修了者を夜間帯に配置してターミナルケアを安心・安全に提供できる体制を目指す。
- ④ ケアの質の向上につながる取り組み
 - 多様化するニーズに対応できるようなスキルを習得し、ケアの質の向上を図る。
 - 1) 老健職員としての必要な知識・スキル習得のための研修を行う。
(感染症予防の研修 年 2 回・身体拘束についての研修 年 1 回・虐待防止に関する研修 年 1 回・事故防止の研修 年 2 回)
 - 2) 前年度の勉強会で培った知識をもとに実践的な認知症に対する研修会を行う。
(年 1 回)
- ⑤ 接遇マナー向上の取り組み
 - 1) 「ありがとう」をテーマに一人ひとりをご利用者、ご家族、ボランティアの方、職場、職員へ感謝の気持ちを持ちながら接することで気持ちの良い、より過ごしやすい環境を目指す。
 - 2) 選ばれる老健施設を目指すため、ご家族・ご利用者からの要望や希望を聞き取る機会を設け、業務改善につなげていく。

≪平成30年度 通所リハビリテーション事業計画≫

目標

専門職が一丸となって、ご利用者様とご家族様が在宅生活に希望

た、日山、ユフ、ト、ニ、士、極、シ、フ、イ、ノ

行動計画

① 平均利用人数 36 名の維持

登録人数 120 名以上を目指す

② 活動やリハビリの PR を継続的に行う

相談員の 2 人体制を充実させ、以下を実現する。

1) 原則として利用実績を毎月各居宅に手渡しすることで、顔の見える関係を構築する

2) サービス担当者会議への参加率 9 割を目指す

3) 月に 4 回各種活動の報告をブログにアップする

③ 在宅生活継続に効果的なサービスの提供

1) 介護負担評価表を作成・実行し、リハ職・介護職の連携により、ご利用者様・ご家族様に寄り添った支援を行う

2) 職員の質の向上のために年間 10 回の勉強会を行う

感染症(4)・リスク管理(2)・認知症ケア(2)・虐待防止(1) 身体拘束廃止(1)

④ ご利用者様の意欲向上のための環境作りと活動の提供

1) リハビリスペース・生活スペース等をリニューアルし、活動、リハビ

リに集中できる環境を提供する。

2) 毎月季節感があり、仲間と喜びを分かち合える場面を意識したおやつと活動の提供
をしていく

平成30年度 事業計画

【ケアステーション所沢 訪問リハビリテーション】

目標

事業の安定化を図り、必要な方に必要なサービスを迅速に提供する。また、他職

種協働のもと、在宅生活継続支援に努める。

行動計画

① 『最大週間訪問件数 68 件を満たし、年間利用件数 2690 件を目指す』

- 1) 新居宅事業所へは訪問チラシを配布し、各居宅事業所へは利用可能状況表を毎月手渡し
することでケアマネと連携を図り、新規利用へと繋げる。また、
通所リハビリと連携をとり、通所サービスの担当者会議にも新規受付情報を提供する。
- 2) 常に利用可能枠を整理調整し、新規依頼時の速やかな受け入れを図る。
- 3) 各曜日 2 人体制であることを生かし、利用者様の情報交換を密にして、
フォロー体制を構築し確立する。

② 『住み慣れた地域での在宅生活継続を目指す』

- 1) 的確なりハビリテーションの提供や適時、必要な福祉用具の選定など安全
で快適な在宅生活を過ごせるために利用者様、ご家族、ケアマネや主治医、

その他専門職と連携を図りながら情報収集・提供を徹して行う。

2) 訪問リハビリミーティングを月1回開催し、随時、困難ケース等の事例検討を実施し、在宅生活継続の解決案を模索する。

3) 桑の実通信を年3回発刊する。

4) 利用者様宛てのアンケートを年1回実施する。

③ 『安全運転を目指す』

1) 車両点検を定期的 to 実施し、無事故、無違反を心掛ける。

2) 適切な移動時間を考慮したスケジュール作成を実施する。

平成30年度事業計画【ケアステ保育課】

目標

・療育活動内容に利用児童の活動後の成長を見据えた目的・目標を設定し、療育活動に合わせた勉強会を行い、職員の意識向上とスキルアップを図る。

・利用児童の身辺自立や社会自立に向けた生活力つけるための支援を行いながら、安心安全な保育・療育を目指す。

行動計画

1. 目標利用実績

目標 月200人（1日定員10人）

(ア) 放課後等デイサービス事業

(イ) 日中一時支援事業

(ウ) 病後児事業

2. 外部研修へ積極的に参加・保育課内で勉強会を開催

(ア) 外部研修会への参加。

(イ) 保育課職員で1人1回勉強会の講師を務める。勉強会後に評価・振り返りを行い各々の考え方・価値観のすり合わせを行う。

3. リハビリ課との連携

- (ア) 理学療法士によるリハビリ活動（月2回）
- (イ) 職員全員が集団リハビリを利用者に指導できる様、リハビリ方法や効果について助言・指導をもらう。
- (ウ) 保育課とリハビリ課でリハビリミーティング（月1回）
- (エ) 保育課ミーティングを行う。（看護課・リハビリ課・保育課合同）
（月1回）

4. 看護課との連携

- (ア) 保育課の勉強会に参加してもらい、保育課の理解を深めてもらえるように努める。
- (イ) 年に2回病後児・障害についての勉強会を開催する。
- (ウ) 常時と非常時の救急用具の点検。
- (エ) 保育課ミーティングを行う。（看護課・リハビリ課・保育課合同）（月1回）

5. 地域関連機関との連携

- (ア) 所沢市自立支援協議会・学校・障害児通所支援事業所等連絡会の参加
- (イ) 所沢市自閉症啓発デー ボランティア参加

ケアハウス大光園

平成30年度 事業計画

法人の基本理念 「その暮らしとその人らしさを求めて」

平成30年度行動目標 「希望ある栄光の年」

来年度3月は開園20周年を迎える佳節となる。より快適な生活環境の整備を目指す。

○年間100%の入居率を目指す

○高齢化に対応したケアの向上

平均年齢、介護度ともに上昇してきている。ケアハウスとしての支援体制、緊急時対応体制の整備を行う。他施設との連携、ご家族との連絡体制の強化を図る。内部勉強会に加え、外部研修を利用してケアの質の向上を目指す。

○業務の効率化

高齢化に伴い、入居者対応が増えてきている。職員への負担も大きくなってきているため、業務の効率化を図り快適な職場環境をつくる。

○計画的な建物・設備の維持管理

入居者の安全・快適な生活のため建物設備の維持管理をしていく。経年劣化による故障が増えてきているため、早めの点検で入居者に不便をかけない修理を行うとともに大規模な修繕も検討していく。

○地域とのつながり

マルベリーカフェ、映画鑑賞会など地域貢献の活動を実施。カフェを地域交流の場と発展させ、居場所づくり・地域づくりのサポートをしていく。

○暮らしを支える生活困窮者支援活動への更なる取組み

29年度は4件の支援の実施。「彩の国あんしんセーフティネット事業」による困窮者支援に加え、就労支援も行い総合的に支援を行っていく。

平成30年度桑の実学校事業計画書（案）

桑の実学校 阿部景子

(目的) 桑の実学校は人材育成の要として、養成講座及び資格取得を目指す職員の皆さんに学習の場を提供すると共に、実務研修の更なる充実を図り法人内職員一人ひとりの資質の向上を図っていきたいと思います。

(事業内容)

養成講座事業

《介護員養成講座》

制度改正に伴い介護福祉士国家試験の受験希望者が半減しました。

しかしながら、これからの超高齢社会を支える介護人材の育成は急務とされます。今後は、地域の中で福祉に関心のある人材の発掘を図る為入り口となる入門研修の新規開講も視野に入れて調整してまいります。

本年度は、下記の日程で講座を開講致します。

介護職員初任者研修課程 (各定員 18名)

第1期 5/17～ 9/13 (4ヶ月)

第2期 10/ ～ 3/ (5ヶ月)

介護部内部研修事業

今年度は下記の内容にて内部職員の研修会を開催いたします。

1. 新人職員研修会は年3回開催 (各2日間)
新人職員未受講者研修会 (H29年度未受講者対象に実施)
2. 実務研修会
 - ① 講師研修
 - ② カテゴリー別の新カリキュラムを導入
 - ③ 役職別研修
 - ④ 研究発表会
 - ⑤ 職員全体講習会 (外部講師による)
3. 資格取得セミナー
 - ① ケアマネジャー受験対策セミナー
 - ② 介護福祉士受験対策セミナー

広報活動

桑の実学校だよりを毎月発行し、法人内各施設の情報交換及び地域への情報提供の場としてまいります。

平成30年度 事業計画

ショートステイ福祉の森

基本理念 「その子らしさとその人らしさを求めて」

2020年までの目標 地域包括ケアの確立で世界に貢献できる人材の城を目指す

2018年の行動目標 希望ある栄光の年

福祉の森コンセプト 「第2の我が家」

目 標

3年目を迎えた今年度もスタッフ個々の個性とスキルを合わせ総合力と結束力をもって家庭的なサービスを提供していきたい。また、今年度はそれぞれ「個」の役割・スキルアップの充実を図り、更なる質の向上に努めていく。

行 動 計 画

① 入所率 90%

利用者のフロア別化を定期的に見直しながら、臨機応変に効率よくベッドコントロールすることで、新規利用者を逃すことがないよう心がける。また、ロングショート枠の無駄が出ないように法人内各入所施設やケアマネジャーと連携を密にしていく。

② 人材育成（年４回）

新人職員からベテラン職員まで、各々の目線を大事にしながらも、得意・不得意のバランスを少しでも埋めあい、スキルアップに繋がるよう勉強会を実施していく。また、個々の能力・役割に応じた研修会にも積極的に参加していく。

③ 地域交流（年６回）

ボランティアの受入はもちろんのこと、積極的に散歩や地域行事・イベントに参加していく。また、今年度も併設居宅や厨房職員との連携にて行事食や手作りおやつを提供し利用者満足度向上に努める。

平成 30 年度 事業計画

事業所名 : みまもり配食センター

1. 目的

「所沢市高齢者配食サービス認定事業所」「トコロ見守りネット協力事業所」として、原則手渡し配食と同時にこだわりの安否確認で安心安全を提供することで、利用者の自立と生活の質の確保及びその家族の身体的・精神的な負担の軽減を図るとともに、ひとり暮らし高齢者等の総合的な福祉の向上と在宅生活の継続を目的とする。

2. みまもり配食センターの目指すもの

(1) 配食を通して住み慣れた地域で継続的に安心して生活できる支援体制の構築

- 一、「認知症サポーター養成講座」「普通救命講習」受講率100%を目指し、配達時にご利用者の状態変化や緊急対応できる体制を強化。
- 一、市内14の地域包括支援センターが開催する「地域ケア会議」や「トコロ見守りネット連絡協議会」に積極的に参加し、配食事業所の役割や日常の活動・実績など民生委員及び地域自治会の方々に訴え信頼度を高める。
- 一、配食利用者の声を聴き続けるシステムとして毎月発行する「おべんと通信」を通して継続した思考調査（アンケート）を実施して皆様に求められる配食事業所を目指す。
- 一、介護事業部の栄養管理委員会を通して、エリア別展開した各施設の栄養士と連携を強化し、病態食や個別対応食の提供と共に厨房施設及び配達時の衛生管理・感染症予防対策の徹底及び指導をしていく。

(2) 平成31年度適正経営に向けた、今年度の取り組み

- 一、今年度より、福祉の森厨房に関わる事業所間でレパストとの食事委託費を適正案分すると共に、各エリアに一部負担をして頂いた経費を全て配食にもどす。
- 一、適正経営に向け、6月より配達エリアを縮小して、無駄な経費を削減して効率的に配達できる2コース体制を構築する。（1日平均90食⇒60食）
- 一、今期末、配食単体1日平均60食の目標を掲げ、その他内部・外部の配食事業収益をあわせ、44,410千円の事業収入と予算計上とした。

平成31年度、完全黒字経営を目指し飛躍的な年として参りたい。

平成30年度 デイサービスセンターさくら 事業計画

『さくら満開 えがお満開』

スタッフの満開の笑顔でお迎えし、満開の笑顔でご自宅へお帰りいただく

一日平均利用者数 目標 36名

1) 全曜日登録45名を目標とする

- ・登録者の稼働率を85%以上に維持
- ・利用目標を具体的かつ明確にし、通所する目的が意識できる環境を作る

2) 外部の居宅介護支援事業所からの紹介率を上げる

- ・居宅営業(訪問・電話)の回数を増やし、顔の見える信頼関係作り

3) 業務効率アップを常に意識する

- ・少人数、省力化を目指し、システムを柔軟に変更していく
- ・得られた時間を利用者との対話時間として還元する

サービスの質を向上させ、地域一番店を目指す

1) 通所計画書(個別機能訓練計画書)の精度を上げる

- ・利用者のアセスメントに十分な時間をかけ、プランニングする
- ・長期、短期目標をより具体化し、機能の維持向上を目指す

2) 介護動作、生活機能の維持向上を目標とする

- ・日常生活の全動作に機能訓練を意識したかわりを持つ
- ・ポジティブケアを実践し、利用者の『できる』と『できた』に注目する

3) 認知症ケアの理解

- ・穏やかな時間を過ごせるよう環境を整える
- ・一人一人をアセスメントし、その人の『楽しい』を見つけ、実践する

4) 感じの良い人を常に意識する

- ・サービス業であることを感じ、第三者の存在を常に意識して立ち振る舞う
- ・利用者とその家族に寄り添い、一人一人の想いを大切にする
- ・介護のプロフェッショナルとしての業務に努める

◆桑の実会通所事業4施設 共通目標◆

1) 生活動作訓練の精度をあげ、その成果を確実なものとする。

- ・食事、排泄、入浴を中心とした生活動作の自立を確実な成果とする。

2) エビデンスに基づいたケアワークを行なう環境を整える。

- ・すべての動作が機能向上訓練であることを再確認する。

3) 相談員業務の質の向上

- ・相談員としての業務を確立。各通所相談員の連携体制を整える。

特別養護老人ホーム本郷希望の丘平成三十年事業計画

理念目標『個別介護はみんなの希望』

年度目標『高い職員満足度で高い顧客満足度を』

開設より三周年を迎え、昨年度においては稼働実績を高め、高い収益を上げた。施設の外部評価と認知度も高まっている。

その一方で、入居者さまの重度化と、ユニットケアの職員孤立のなかで、職員は疲弊し、高いストレスにさらされて業務を行っている。

職員の献身と士気に甘えることなく、施設として継続的に働いてゆきたいと心から思える職場を提供すべく、第一に職員満足度を上げてゆくことを年度目標に掲げてゆく。

ACTION 1 労働状況の可視化で目に見える改善を達成する

・残業時間の抑制、有給消化率の向上を施設全体で取り組むべし 情報開示してゆく。月ごとの勤労実態を現場へ戻すと共に、勤務環境の悪化に対する施設運営者の予防的な対応精度を上げてゆく。

ACTION 2 副主任会議の編成で現場の声を施設運営につなげてゆく

・現場を支えるユニットリーダーが当施設の要。ユニット内で起こっている問題を施設全体の問題として共有できるよう、より実務的な副主任会議を編成する。改善課題にひとつひとつ丁寧に対処してゆき、現

場を施設づくりにつなげてゆく。

・話を強化し、経営課題に職員全体で取り組める底力のある施設を目指す。副主任会議と理事長・介護部長の面談の場を準備し、施設貢献だけでなく法人全体へ貢献できる、希望の丘の人材を知っていただく。

ACTION 3 職員研修の継続で力ある職員を育てる

・引き続き、施設内研修を用いて職員の技術向上と交流を図ってゆく。本年度も月別の職員勉強会を設定し、「専門分野を語れる職員」を育成してゆく。
・法人内部研修の制度の変更に応じ、内部研修出席率を向上させてゆく。

平成 30 年 2 月平成 30 年度事業計画

居宅介護支援事業所桑の実東所沢相談室

平成 30 年度、東所沢相談室は法人の 2018 年度の行動目標、

『希望ある栄光の年』

【「希望」をテーマに、一人ひとりが光り輝くために、希望の種を福祉という大地に植えていく年とする】

を受け、地域包括ケアシステムに向けた取り組みや今期の部門目標・方針を念頭に事業運営を行い、目標達成に向けて努力します。

①質の高いケアマネジメントの実施

● 居宅介護支援において法令を遵守し(コンプライアンス)、基準に即した運営を行う。

・利用者様が可能な限り自立した生活を送ることができるように、「尊厳の保持」「自立支援」「重度化予防」の視点を持ったケアマネジメントを行

○「求められる相談員像」の実践と研修の再編○内部・外部研修への参加

○職員の資質向上に向け、個別研修計画と Do-cap の連動を図る

②市の認定調査受託と、それを通じた制度勉強の継続。

● 行政の協力だけでなく、国によってその都度変えられる『介護度を定める基準』を学ぶためにも欠かせない機会と捉え、調査受託を月 5 件にて継続する。(1 件 3,780 円)

③松井東包括・柳瀬包括との連携強化

- 近隣 2 包括との連携をより強化し、地域包括ケアシステム構築の協力を行う。少なくとも 2 ヶ月に 1 回はどちらかの包括との連携会議に参加し、協力体制を継続する。

④目標ケアプラン数 140 件

- ・月平均で取扱件数 140 件。

の 4 つを重点項目として事業運営を行い、目標達成に向けて努力します。そして、地域包括ケアシステムの構築に向け、在宅介護の限界点を上げることを目指していきたいと思います。

平成 30 年度事業計画【くわのみ本郷クリニック】

現状の体制下で、新患増・リピーターの確保に努める

行動計画

①年間通して保険診療及び自由診療月額前年実績以上の確保。(月平均 430 万円以上)

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
4	3	3	3	3	4	4	6	5	4	4	4
()	4 2	9	2	7	0	7	3 2	6 7	6	1	0
1	万円	1	7	6	9	9	万円	万円	1	5	0
万		万	万	万	万	万			万	万	万
円		円	円	円	円	円			円	円	円

②地域・法人の医療拠点として信頼を深め経営の適正化を図る。

- 1) 現医師体制 3 年間の実績で得た地域からの信頼を患者増へと繋げていく。
- 2) 法人利用者・内部職員との連携を取ることで経営効率の向上。
- 3) 遠隔診療(スマホ通院)の職員への普及。

③多職種間での連携強化

- 1) 専門分野を越えた業務への取り組みを行う。
- 2) 業務をフォローし合うことで、患者回転率の向上を目指す。
- 3) 適正な診療体制を見極めるため、随時クリニック会議を行う。

	月	火	水	木	金	
午埔 9 : 00 12 : 00	清水	/	岩上	岩上	/	
午後 14 : 00 17 : 00	岩上	岩上	岩上	岩上	岩上	岩上

平成 30 年度事業計画 【通所リハビリテーション】

◆目標◆

- ◎ 1 日平均 41 名を目指し、継続的に保つ
- ◎ 相談員の強化と各専門職の育成
- ◎ カンファレンスを生かしたチームケアの確立

◆行動計画◆

①送迎エリアの拡大

- ・ 今現在の送迎エリアから無理のない範囲で広げることも視野に入れて新規を獲得

する。

②短時間利用の受け入れを行う

- ・短時間利用の希望が多いことを受け、曜日限定で短時間の利用が出来る体制を整える。

③相談支援業務と営業力を強化する。

- ・相談員2名体制を確立し、新規受け入れに迅速に対応できるようにする。また、CMとの連携も密にしていく。

④現在行っているカンファレンスを工夫し、リハビリにつながる活動を広げ、来所する楽しみや在宅生活の継続に生かしていく。

- ・それぞれの利用者様について必要な活動やリハビリをもっと深く検討し、幅を広げたものにしていけるよう話し合い、実行していく。

*通所4施設共通目標

①生活動作訓練の精度を上げ、その成果を確実なものとする。

→食事、排泄、入浴を中心とした生活動作の自立を確実な成果とする。

②エビデンスに基づいたケアワークを行う環境を整える。

→すべての動作が機能向上訓練であることを再確認する。

③相談員業務の質の向上

相談員としての業務を確立。各通所相談員の連携体制を整える。

くわのみクリニック通所リハビリテーション

平成30年度事業計画

【行動計画】

① 通所4施設 共通目標

(1) 生活動作訓練の精度を上げ、その成果を確実なものとする

→ 食事、排泄、入浴を中心とした生活動作の自立を確実な成果とする

(2) エビデンスに基づいたケアワークを行う環境を整える

→ すべての動作が機能向上訓練であることを再認識する

(3) 相談員業務の質の向上

→ 相談員としての業務を確立。各通所相談員の連携体制を整える

★ 一日平均利用者数目標 ⇒ 1単位：43名+2単位：7名 計 50名 平均実績 42名
平成 30 年度最重要目標通りハ平均実績 42 名を維持し、福祉の森全体の経営の安定を図る

★ 管理医師である橋爪Dr、リハビリ専門職、看護師、介護スタッフの強固な連携で、平成 30 年度、新たに改正となる介護保険を攻略し、必要な加算を算定していく

★ 作業療法士 1 名と理学療法士 1 名体制によるリハビリに特化したケアアプローチ

◎ 「自宅でできない体験」をして、「自宅でできること」を増やす

・専門職 2 名体制により身体機能面からだけでなく、ADL や趣味活動、屋外活動へ重点的に介入していくことにより、ご自宅ではできないリハビリや活動を体験して頂き、ご自宅でできる ADL や趣味活動、屋外活動を増やしていく。

◎ 「できない」「しない」から「やってみよう」へ、そして次の「やってみよう」へ

・ご利用者さんの「本当はやってみたい」「前はしていた」などのお話や思い、気持ちを情報収集し「やってみよう」という気持ちを持って頂けるように身体面や動作面からだけで

なく、精神的なアプローチも実施し、実際にやってみることにより「できる」という体験や経験をして頂くことで、次の「やってみよう」へ繋げていく。

◎「通所リハビリは生活の一部」から「通所リハビリは生活の一步」へ

・現在、通所リハビリは生活の一部として欠かせないものとして考えているご利用者さんが多いが、通所リハビリは在宅生活へ向けての第一歩として考えて頂けるように、在宅生活での気になる点や問題点を見直し、より明確な目標設定をして通所リハビリからの卒業を目指して頂く。

平成30年 3月

平成30年度事業計画

サービス付き高齢者向け住宅
レジデンシャル小手指 Sakura

平成26年10月にオープンし、約3年半が立ち、29年度は、目標である年間平均入室率96.5%（56室）を達成することが出来ました。30年度の重点目標は、①入居率96.5%（56室）②各種委員会・アクト活動の充実、③介護保険5事業所の更なる経営効率を図ります。入居者及び職員に安心と安全を提供し、法人の理念である「その子らしらとその人を求めて」を実現させ、所沢市の地域包括ケアシステムの拠点となることを目指します。

また、30年度も、Sakuraの3つ役割である「社会・地域貢献」、「医療と介護の連携の推進」、「地域防災の拠点」は、継続し遂行していきます。

① 入居率96.5%（56室）と迅速な入退居管理

平成30年度も、入居率96.5%（56室）を目指し経営の安定を図ります。入退居管理を迅速に行い、入居運営の更なる充実を図ります。

② 各種委員会・アクト活動の更なる充実

『入居運営委員会』、『行事委員会』、『食事委員会』などの各種委員会をとおし、運営や介護の方針を決定し職員間の意識の統一に努めます。

特に食事委員会では、関東学院大学細山田准教授の協力の元、嗜好調査、メニューの見直しや行事員委員会では、れおん保育室との交流、みのり福祉会の入居フロアでの販売及び交流などの検討を行っていきます。

③ 介護保険5事業所による入居者への介護の提供と経営の安定

介護保険事業5事業所が連携し、入居者への介護の提供を行い、各事業が数値目標を達成することで安定した経営が行えるように努めます。

④ 地域包括ケアの拠点として3つの役割

地域包括ケアの拠点として「社会・地域貢献」、「医療と介護の連携の推進」、「地域防災の拠点」の3つ役割を果たします。特に防災、地域との連携、看取りなどの研修会や推進を行っていきます。

平成30年3月

平成30年度 事業計画

訪問介護支援事業所

桑の実中央ヘルパーステーション

平成30年度桑の実中央ヘルパーステーションは、法人目標である「希望ある栄光の年」を受けて、5つの重点項目を掲げ事業運営を行いたい。

一人ひとりのニーズに合ったサービス提供ができるよう、意識統一を図り、個々の介護技術や意識を高め、多方面と連携を保ち、安心して在宅生活をして頂けるよう努めたい。

① 月間売上目標 490万円

月間売上目標の達成を目指し多くの居宅支援事業所との信頼関係を築き、ニーズや満足

度を的確に把握しながらよりよいサービスを提供し、定期的な新規利用者の獲得を目指す。

又、個々のニーズに合ったサービス提供の為、個別援助計画書の作成を確実に行う。

② 看取りの実践

本人・家族に対し精神的なサポートを行い看取りの実践を行う。

看取りの実績、分析、研修を行う。各方面と連携し訪問介護としての役割を確立したい。

③ 24時間訪問介護看護「ほほえみ」との連携を強化する

「ほほえみ」との連携をさらに強化し入居者及び外部に対し適切なサービスを提供する。

又、福祉の森2階業務改善協力を行う。

④ 職員満足度の高い職場づくり・人材確保と育成

職員・直行直帰ヘルパーが仕事に対する高いモチベーションを保ち、業務に対する達成感を味わえるよう、生き生きと満足して働ける環境整備し、個々の能力、意識の向上が図れるよう帰属意識の高い体制を構築する。

内外部の研修会に積極的に参加し技術と知識の向上を図る。

直行直帰ヘルパーの増員に向けて募集の呼びかけ等を行う。

住宅型有料老人ホーム 福祉の森

平成 30 年度事業計画

社会福祉法人桑の実会

住宅型有料老人ホーム 福祉の

森

当事業所は、法人の 2018 年の行動目標『希望ある栄光の年』（2021 年の創立 45 周年の仮設まであと 3 年。今年は希望をテーマに 1 人ひとりが光り輝くために、希望の種を福祉という大地に植えていく年と位置付けたい。併設のクリニック・通所リハビリ・居宅を始め、訪問介護・夜間見守り訪問介護事業所等との連携を図り、ご入居者様の全体像を把握できるよう努め、また、ご入居者様が安全・安心・安定したホームでの生活を継続できるように必要かつ適切なサービスの提供を行います。

そして、今期の目標、方針を部門の一員として十分理解して事業運営を行い、目標達成を目指します。

平成 30 年度の具体的な活動計画は以下の通りです。

● 入居 14 部屋の常時の満床を目指す。

● 選ばれる有料老人ホームになる為への取り組み

- ① 他事業所との連携を図りながら、1 日 2 回（午前と午後）全員で集まり、体操や様々なレクリエーションを行う。
- ② 他事業所との連携を図りながら、24 時間 365 日安心安全に見守れる体制を築く。また、1 日に最低でも 8 回安否確認を行う。
- ③ また、県や市で主催する各種研修会には積極的に参加してスキルアップを行い合わせて同業や異業種の事業所との連携や情報交換を行う。相談員連絡会議にも主体的に参加し、情報収集や連携の機会を数多く持てるように致します。
- ④ 親を入れたい。自分自身が是非入りたいと思える施設へ。接客はおもてなしの心、福祉の心で精一杯行っていく。
- ⑤ 必要な時に必要な人員配置を行うことができる 24 時間訪問介護ほほえみを導入し（下半期開始を目標に）、更に安心安全の充実した介護体制・職員体制の構築を図って行く。

平成 30 年 3 月

平成 30 年度事業計画

居宅介護支援事業所

桑の実南相談室

当事業所は、法人の2018年の行動目標『希望ある栄光の年』【「希望」をテーマに、一人ひとりが光り輝くために、希望の種を福祉という大地に植えていく年とする】を受け、地域包括ケアシステムの構築に向けた取り組みや今期のエリア目標・方針を念頭に事業運営を行い、目標達成に向けて努力します。

平成30年度の具体的な活動計画は以下の通りです。

① 質の高いケアマネジメントの実施

- ・居宅介護支援において法令を遵守し（コンプライアンス）、基準に即した運営を行う。
- ・利用者様が可能な限り自立した生活を送ることができるように、「尊厳の保持」「自立支援」「重度化予防」の視点を持ったケアマネジメントを行う。

○「求められる相談員像」の実践と研修の再編。研修の一環として、一人一件認定調査を請け負う。

○内部・外部研修への参加

○職員の資質向上に向け、個別研修計画と Do-Cap の連動を図る。

○愛され、頼られ、選ばれるケアマネへ

② 地域貢献

・わたしのまちの車いす（ちょい借り）ステーション推進事業への協力

地域の方が一時的に車いすを使いたい時に無料で貸出する事業（所沢市社会福祉協議会 地域福祉推進課）への協力を通じて地域貢献を行う。

③ 桑の実会の各事業所間及び包括支援センターとの連携・ネットワークの強化

・併設の通所リハビリ・クリニックとの連携強化

・近隣包括支援センターとの連携をより強化し、地域包括ケアシステム構築への

④ 目標ケアプラン数 135 件

月平均で取扱件数 135 件。

⑤ 次年度の特定事業所加算Ⅳの取得（末期がん・在宅看取り年間 5 件、入院時情報提供加算・退院退所加算年間 35 件が条件）を目指す。

⑥ 福祉の森の入居率

福祉の森の入居率常時 100%を目標に、空室を作らない、空室が出来たら営業を行い桑の実のネットワークを駆使して、各方面へ働き掛けて強い気持ちで埋めていく。

平成 30 年 3 月

平成 30 年度事業計画

定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業所

平成30年度、24時間ホームケアほほえみは、法人の行動目標である

「希望」・・・一人ひとりが光輝くために、希望の種を福祉という大地に植えていく年。

を受け、小手指エリアの地域医療福祉の連携強化を担う一端として、地域貢献、地域還元を目的とすべく3つのヘルパーステーションで連携をはかり、定期巡回・随時対応型訪問介護看護の地域への始動をし、地域派遣に力を入れ、貢献していけるよう努めたい。

① 月間売上目標 440万円

レジデンシャル小手指Skura内部30名前後の利用者への安定したサービスと

それを基盤としたサービスで、定期的な外部利用者の獲得を目標とし、地域の方々に利用していただき、介護、看護の専門的視点から総括的にサポートし、安心して在宅生活を送れるように支援する。(上半期外部派遣の確保。下半期福祉の森のほほえみ移行)

② 多職種との連携

桑の実中央ヘルパーステーション、夜間見守りきずな、デイサービスさくら、医療

等連携し、相談員を中心に一人ひとりに添ったプランを作成し安心して長く居宅にて暮らして頂けるよう努める。(サ高住近隣の在宅利用者の確保に力を入れたい。)

③ 年2回の介護医療連携推進会議の開催

地域に開かれたサービスをするため、利用者及び家族、市役所職員、医療機関、地域包括、地域の方々との情報の共有をはかり、サービスの内容を明らかにし質の確保をはかり、地域における介護、医療の課題を見つけるよう努める。

④ 副主任2名を中心とした「家族会」の開催

利用者様が日頃どのような生活をされているか、ご家族の不安やご希望等、「会」を通して情報の共有を図り、忌憚ないご意見をいただき、サービスの向上に繋げていく。

平成 30 年 3 月

平成 30 年度事業計画

居宅支援事業所

桑の実中央相談室

平成 30 年度、中央相談室は、法人の 2018 年行動目標である

「希望のある栄光の年」（希望をテーマに一人ひとりが光輝くために、希望の種を福祉という大地に植えていく年とする）を受け、地域包括ケアシステムの構築に協力し、利用者様がいつまでも住み慣れた地域で安心して暮らし続けられることができる地域づくりのお手

伝いをしていきたいと思ひます。

【年間目標】

(1) 質の高いケアマネジメントの実施

・居宅介護支援において法令を遵守し、新介護保険制度に即した事業運営を行う。

・利用様が可能な限り、自立した生活を送ることができるよう「尊厳の保持」

「自立支援」「重度化予防」の視点を持ったケアマネジメントを行う。

○「求められる相談員像」の実践と研修

○他法人の居宅介護支援事業所と共同研修の実施

○介護支援専門員実務研修の実習受け入れを行い、ケアマネジメントの基礎技術に関する実習等を実施

○ターミナルケアを積極的に受け入れ、特定事業所加算Ⅳの算定を目指す。

(2) 地域貢献

・近隣2包括との連携強化

○地域ケア会議に参加する。

地域ケア会議に参加し、社会資源の情報収集や創出の協力をを行う

(3) 利用者数の確保

・新規利用者を獲得し安定した事業所の運営に努める。

○目標ケアプラン数 165 ケアマネ5人体制で、月平均、取扱件数 165 件

(4) 桑の実会の各事業間との連携・ネットワークの強化

- ・ S a k u r a内外の事業所とケアマネ業務としての円滑な連携を行う。

(5) ケアマネ業務とさくら相談業務のあり方の検討

- ・ ケアマネ業務とさくら相談員業務のあり方について検討を行い、役割分担を明確にする

平成30年度事業計画

居宅介護支援事業所

桑の実荒幡相談室

≪法人の基本理念≫ 「その子らしさとその人らしさを求めて」

平成30年度の行動目標 「希望ある栄光の年」

今年度桑の実荒幡相談室は、在宅サービスの窓口として

地域の方々から選ばれるケアマネージャーを目指し、人間力・ケアマネジメント力の向上に努めて行きます。又、地域包括ケアの確立の為、地域包括支援センターと

の連携は勿論、特定事業所としての役割を理解し、地域と積極的に関わって行きます

① 質の高いケアマネジメントの実施

- ・居宅介護支援において法令を遵守し、基本に即した運営を行う
- ・利用者様が可能な限り自立した生活を送ることが出来る様に

「尊厳の保持」「自立支援」「重度化予防」の視点を持った
ケアマネジメントを行う

- * 「求められる相談員像」の実践と研修の再編
- * 内外研修への参加
- * 職員の資質向上に向け 個別研修計画とD o - C a pの連携

② 目標ケアプラン数 140件

- ・月平均 取扱い件数140件

③ 併設事業所への協力

- ・年4回の行事参加 (5・8・12・3月予定)

平成30年度事業計画

小手指サポートハウス24
グループホームこころ

2018年法人の目標である「希望ある栄光の年」にしていくため、入居者様、職員一人ひとりが光り輝くホームを目指し、エリアとしての目標である収入と支出のバランスを踏まえた運営を行い、「利用者満足」「職員満足」を達成していきたい。

< 桑の実会の理念 >

その暮らしとその人らしさを求めて

< 小手指サポートハウス24の理念 >

お年寄りの思いや楽しみに気づき、一人ひとりにとっての

日常を大切にし、一緒に考え、一緒に行動します。

< 2018年桑の実会の行動目標 >

「希望ある栄光の年」

①利用者が穏やかに安心した生活を送る為の取組

- ・ご本人が最後まで穏やかな生活を実現できるよう、事故防止や体調管理をしっかりと行うため毎月報告書を作り、ホーム全体で情報共有し長期の入院や重症化にならないよう努める。

②経営安定のため月平均17名の入居率の確保

- ・サービスの質の向上や業務効率化のため設備や備品の準備、職員の処遇改善手当等、介護職員への還元に繋げるため、月平均17名の入居率の確保を目指し経営の安定を図る。

③地域とのかかわりをもつ

- ・地域に向けた行事や運営推進会議（年6回）を開催する。
- ・看護実習生の受け入れや職場体験、地域ボランティアの受け入れなど、地域の人たちとのかかわりを持つことで、入居者様が地域の中で役割や楽しみをもって生活できるホームを目指す。